

毎週日曜発行 2017 10/1

こども新聞 週刊かほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



今回から「お仕事の現場」がまた始まるよ。ふだんみんなが食べる野菜は、どんなふうにならされているのかな。かほピョンはきょう、仙台市太白区秋保で農業を営む渡辺重貴さん(45)に話を聞いたよ。

(7回続き)

観光名所「秋保大滝」の近く、自然豊かな里山に、渡辺さんが毎日通う畑「くまっこ農園」があります。芽を出したばかりの小さな葉が並ぶニン

ジン、背の高い大きな葉が茂っているのは里芋。他にもネギ、ゴボウ、キヤベツ、白菜：季節に合わせて育てる野菜は、年間なんと70種類。水はけのいい土と、朝晩にぐつと冷え込む気候が、野菜作りに適しているそうです。

渡辺さんのこだわりは、農業や化学肥料を



農業

渡辺 重貴さん (45)

＝仙台市宮城野区＝



使わないこと。代わりに、米ぬかやもみ殻を家畜のふんに混ぜて発酵させた「有機肥料」を畑に入れます。すると、微生物やミミズが住むふかふかで元気な土になるそう。いい土がおいしい野菜を育ててくれる。採れたてを

畑で丸かじりすれば、最高ですよ」とにっこり。農業を使わない分、草取りをしたり、虫を手で取り除いたり、手間がかかります。大変でしょう、と聞くと「毎日一つ一つ様子を見れば、野菜が今どうしてほしいのか

が分かる。面白いですよ」と返ってきました。育ち具合をみて、土を多くかぶせたり減らしたり、風通しを良くしたり、さまざま工夫をするそ

がやりがい、と話してくれました。

◇ 渡辺さんの夢は、仲間を増やし農業を広めることなんだって。野菜作りへの熱い思いを語る姿が、とっつてもかっこよかったよ。

手間かけおいしい野菜に



「美しい風景とおいしい空気の中で働けるのが幸せ」と渡辺さん。後ろの大きな葉は、これから旬を迎える里芋



作物を収穫するときに使う収穫ばさみ。毎日一緒に働く「大事な相棒」

うです。種をまく時期や、肥料の与え方も、その年の気候などによって違います。

思い通りに育たないときは「すぐく悔しい」。どうすればいいかとことん考え、研究して、翌年またチャレンジするか。それが成功すれば、「やったぜ!」っていう気分。一生懸命やっただけ作物が応えてくれるの

今週の注目ニュース

◇2日(月) ノーベル医学生理学賞の発表(スウェーデン・ストックホルム)

この後、物理学賞、化学賞、平和賞などの発表が続く。4年連続で「日本人受賞」のニュースがとどくといいね。

◇4日(水) 百貨店の高島屋新宿店(東京)にロボット売り場がオープン

百貨店が常設のロボット売り場を開くのは初めて。人と会話をするタイプなどをそろえ、ふれたり、使ったりできるそうだよ。

きょうの紙面

- 2 いいものさがし
- 3 3分チャレンジ
- 4・5 いいね
- 6 英語
- 7 かほくワークシート
- 8 投稿特集